



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団事務局
環境活動支援課
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス ～晴れたら市原、行こう！～

市原市役所経済部 国際芸術祭推進室 平田 悟一

3月21日～5月11日まで、市原市南部地域において、「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」を開催しています。

市原市は、1957(昭和32)年から始まった臨海部への企業進出により、かつての農村漁村は工業地区に変わり、北部地域では首都圏で働く人々のベッドタウンとして人口急増が進みました。一方、里山や緑豊かな自然が残る南部地域では、過疎高齢化が急速に進んでいます。このような戦後日本の縮図ともいえる発展を遂げてきた市原は、首都圏が同様にはらむ多くの問題を抱えています。

いちはらアート×ミックスは、南部地域の里山地帯を中心に、地域資源を顕在化させる美術の働き、多様な層の人々の協働を促す力を生かしながら、首都圏近郊都市が抱える問題を一つずつ解きほぐし、解決していこうという意図のもとに出発しました。

今回のいちはらアート×ミックスでは、廃校の活用、小湊鐵道の活用、Around 40 世代アーティスト、豊かな自然と食、という4つのキーワードをもとに、「晴れたら市原、行こう」というテーマで取り組みます。廃校の活用では、4つの旧小学校をそれぞれの地域の事情に合わせて生かすことにしました。



1. 内田未来楽校 [旧内田小学校]
古い木造の教室が、転用されながらも地域の人々が使う拠点として大切に守られてきました。その意志に沿うべく、小展示場として展開します。

2. IAAES [旧里見小学校]
IchiHara Art/Athelete Etc. Schoo (市原芸

術・スポーツエトセトラ学校)の略称。地域の人だけでは学校は守れません。芸術やスポーツにかかわりながら、農業を通して地域に入ろうとする人々を受け入れ、スポーツ教室、アトリエ、音楽教室、地域の文化サークルなど、恒常的に活動できる場を目指し、総合文化施設として蘇らせようと構想しました。

3. いちはら人生劇場 [旧白鳥小学校] + 里山芸術劇場 [白鳥公民館]

芝居やパフォーマンスは、地域での長い滞在が必要になります。近くにある公民館を含めて、滞在型の練習場、公演可能な施設として再生させます。ここでは芸術祭会期中の毎週土曜、運動会を開催することにより、外部との新しい交流を図ることを考えました。

4. 月出工舎 [旧月出小学校]

アーティストの活動により、学校が地域資源を再活用する工房になります。若いアーティストたちの共同の夢が、地域の希望とつながることを目標にしています。

小湊鐵道の活用では、駅舎や車両を最大限に活かした、ほかでは決して味わうことのできない「体験」を提供します。列車の中での演劇や、郷土食を取り入れた美味しい駅弁は、鮮やかな思い出となることでしょう。40歳前後の意欲あるアーティストが長期的にかかわり続けるのも、大きな特徴です。

来場者の方々には、作品を巡りながら里山の風景を楽しみ、豊かな自然の中で暮らす多くの地元住民のおもてなしの心に触れてほしいと思います。また、芸術作品を楽しむことはもちろんですが、サポーターとして運営にも参加していただきたいと思っております。この機会に是非、いちはらアート×ミックスへお越しください。

作品等の詳細は、<http://ichihara-artmix.jp/>をご覧ください。

平成26年度環境パートナーシップちば総会開催のご案内

寒い冬から急に温くなり、春の花が一斉に咲き始めました。会員の皆さま方には、お元気でご活躍のことと思います。

当会もおかげさまで、25年度をまとめ26年度への歩みを進める時期となりました。

そこで、以下の日程で平成26年度総会を開催します。是非多くの会員の方のご参加をお願いします。

平成25年度の主な活動は、「エコメッセ in ちばの事務局」、「千葉県環境学習指導者養成講座の受託事業」、「ナガエツルノゲイトウ調査等に関する連携活動」が大きな取り組みでした。

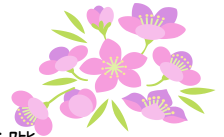
これらの活動を通して、多くの主体と協働の取り組みを推進していく必要を強く感じました。

まさに「つなぐれ ひろがれ」です。それには会員の皆さまのお力添えが重要です。皆さまからのご意見をいただきニーズを知り、具体的な活動を展開していきたいと思ひます。

第1部は総会を開催し、総会後の第2部は、4月エコサロンと交流会を行います。

エコサロンと交流会は、「環境学習大集合Ⅱ」を開催します。日ごろ環境学習を展開されている方、

千葉県環境学習指導者養成講座修了生などのご意見等を是非この場でお知らせください。そして、今後の活動や方向などを皆さままで話し合いたいと思ひます。



日時：平成26年4月20日(日)
場所：きぼーる 多目的室
千葉県ビジネス支援センター15階
住所：千葉市中央区中央4-5-1
<http://www.qiball.info/index.php>

- 第1部 総会 13:30~14:30
 - ☆平成25年度事業・会計・会計監査報告
 - ☆平成26年度役員改選・新役員紹介
 - ☆平成26年度事業計画(案)・予算(案)
- 第2部 エコサロン及び交流会 14:45~16:30
 - ※総会終了後、環境学習についての話し合い「環境学習大集合」を開催します。

★4月エコサロン★

テーマ「環境学習大集合Ⅱ」

話題提供者：環境学習指導者養成講座卒業生

参加費：500円(資料代含む)

条例違反の埋め立て、地下水へも影響 発端は、メダカ・ザリガニなどの死滅

任海 正衛

四街道市栗山の残土埋立て現場で、市が定めた基準を大きく超える汚染土砂が確認された問題は、大きな環境問題となっています。

埋め立ては12年9月から13年9月まで行われた有限会社建設機構による事業です。埋め立てられた場所は栗山、四街道1Cの南で、約2万平方メートルの面積に20万立方メートルの残土が持ち込まれました。

昨年春、そこから流れ出た汚染水により、下流のムクロジの里のメダカ等の生物が絶滅などの影響が出て発覚しました。汚染水の流出はいまも続いており、地下水への浸透も起きています。

この現場では、何らかの汚染物質が大量に埋められたようで、土壌のpHが市条例の基準を大幅に超える極めて強いアルカリ性を示しています。発覚から既に9ヵ月を経っていますが、全く是正が進んでいません。この汚染は四街道市だけの問題でなく、県をあげて健全化に取り組んでいる印旛沼水系の新たな汚染源として重大視する必要があります。

問題発覚後も業者は市の保全命令等に従わず、勝手に中和剤と思われる薬品を大量散布する事態も起きています。四街道では3月2日、汚染問題の講演

会を開き、「四街道の安全でおいしい水を守る会」を結成され(現在会員約100名)、撤去のための市民運動が動き始めました。



汚染の状況(市の発表したデータによる)

- 土質 市の基準 pH 4~9
実測値 10.0(基準を10倍オーバー)
- 水質 河川環境基準 pH 6.5~8.5
実測値 10.7(基準を100倍以上オーバー)
COD 湖沼などの環境基準 8
実測値 66(想像を絶する汚れた水)
- 地下水(近接井戸)
飲用井戸基準 塩化物イオン 200
実測値 1420(基準の7倍、飲用不適)
飲用井戸基準 硬度 300
実測値 2110(基準の7倍、飲用不適)

千葉県のエノシシ対策

千葉県生物多様性センター 浅田正彦

千葉県内各地で、エノシシによる被害が多発しています。昨年度の農作物における鳥獣害全体の約半分がエノシシによるもので、約1億8千万円に上ります。このエノシシは1970年代中頃に在来の個体群が一旦絶滅し、その後、野外に放逐された個体を起源とする個体群が分布拡大しています（ちなみに、エノシシの放逐行為は違法行為ではありません）。このエノシシの放逐は北総地域の数か所でも行われたとの情報もあり、この数年で、白井市、印西市、八千代市、佐倉市、成田市、銚子市など北総各地でも出没するようになってい

ます。このエノシシによる被害については、農作物だけにとどまらず、雑食性であるため、両生は虫類など従来の生態系への影響も無視できません。さらには、農村地域と新興住宅地が隣接している地域でも生息しているため、市街地にも出没して、人身被害が発生するのも時間の問題と考えています。印西市では、小学校のPTAに向けて、エノシシ出没注意の手紙を出すほどにまでなっています。

エノシシによる農作物被害を防止するための対策としては、①捕獲、②防護柵、③環境整備があげられます。もちろん、それぞれ様々な技術（たとえば捕獲と一言でいっても、銃、くくりわな、箱わなによる方法があります）があり、対策を行う集落側の事情（年齢、人数、時間的余裕など）も様々なので、一概にどの対策が適当かは、集落によって変わってきます。ちなみに、世の中で噂

となっている対策のうち、光やにおい、音を利用するものは数日の短期的な忌避効果はあるかもしれませんが、効果的な対策とはいえません。詳細は、千葉県エノシシ対策マニュアルをご覧ください。

URL:<http://www.pref.chiba.lg.jp/noushin/choujuu/yougai/>

それでは、市街地に暮らす市民としてできることは、どのようなことか、最後にお伝えしたいと思います。それは、まずエノシシ問題に関心をもつことでしょう。そして、直接的、また間接的に身近な農村を支援することをお勧めします。例えば、地場農産物を購入することは、農村の方々の生活を支えるために大事なことです。また、自分が住んでいる地域の生きもの豊かな農村環境を保全するために、農村の生活を、被害対策も含めて一緒に支えていくすべを探していくのもいいでしょう。

数年前にできたばかりの「生物多様性地域連携促進法」によって、そんな農村での生物多様性保全について、地域外の人々と土地（農地）所有者との間の連携を、市町村が「仲介」して、進めていく枠組みが用意されました。農家の方と一緒に、獣害対策や農村の環境保全活動ができるようになりました。千葉県生物多様性センターは、その市町村の「仲介」を支援する組織（地域連携保全活動支援センター）ですので、お気軽にご相談ください。



(写真提供：浅田)

エノシシってどんな動物？

～佐賀県生産者支援課ホームページより～

《運動能力など》

- ・オスの成獣は鼻を使って70kgの重さを持ちあげる。
- ・数kmは泳ぐことができる。
- ・時速40km以上で走る
- ・1m以上のジャンプ力
- ・突進力は成人男性と同等以上
- ・咬む力は成人男性の2倍以上
- ・鋭い臭覚（犬以上）、すぐれた聴覚
- ・視力は豚と同じ0.1程度で、100m先の人間を認識できると言われています

《特性など》

- ・すぐれた学習能力
- ・鼻を使って、地面を掘り返す
- ・地面をもぐって、20cmのすき間を潜り抜ける
- ・人が怖いから夜間活動する機会が多いが、安全な場所では昼間も活動する
- ・なんでも食べる雑食性

関東 ESD 学びあいフォーラム 2014 年の報告

ESD 実践のためのポイントや具体的なプログラムについて学びあうために 2014 年 2 月 8 日（土）関東 ESD 学びあいフォーラムが東京ウィメンズプラザで開催されました。

フォーラムに参加してご報告の予定でしたが、大雪のため残念ながら出席出来ませんでした。交通事情の悪い中でも実施されたと聞いて、関係者はさぞかし大変だったろうとお察しました。そんなわけで、GEOC（地球環境パートナーシッププラザ）のホームページに掲載されたものを元に報告させていただきますこと、お許しください。

基調講演 1 では、「なぜ今、ESD が必要か？環境教育において ESD を実践するには？」～実践のポイント～では、川嶋直（ただし）氏より、写真のような KP 法（紙芝居プレゼンテーション法）で話そうとする要点を書いた講演でした。①「伝える」ということ ②環境教育にとって自然の中での体験は欠かせない！ ③環境教育 2 つの誤解 ④人材育ってどうしたら効果的？という話の展開の中で、集合研修や出前研修、OJT 研修を合わせて行う必要があるまではお約束の展開かなと思われましたが、その後 ⑤MOOCS と反転授業というテーマの報告はとても興味深いお話になっていました。どちらも検索して見られますが、

MOOCS とは大規模公開でオンライン授業のこと。反転授業とは、各自が学んだビデオ授業を元に教室では質問しあう、教えあう、そこに議論が生まれ創造されていく授業で、教師は引き出し役つまりファシリテーター型の教師のスキルが求められている。だからこれからが ESD の人たちの出番だという元気をいただくお話でした。

基調講演 2 「学校で ESD を実践するには？」大塚明氏（前 天城中学校校長）の後に、「実践のポイントを学びあうための分科会」①地域×循環 ②企業×低炭素 ③学校×自然共生 ④NPO×国際理解 ⑤ユース×環境教育 その後「全体会」が実施されました。詳細は <http://www.geoc.jp/news/21978.html> を参照ください。（横山）



「ESD フォーラム in ちば」報告

ESD（「持続可能な社会」の担い手を育てるための教育）を千葉で広めるために、2014 年 3 月 2 3 日（日）千葉市きぼーるを会場に「ESD フォーラム in ちば」を環境パートナーシップちばが開催しました。

はじめに、東京都足立区梅島小学校副校長石田好広先生に基調講演「学校教育と ESD」をいただきました。教師というお立場で、子どもの環境教育への思いから環境省に出向き、その後東京都環境学習センター閉館にも立ち会った中から、学校現場での ESD 推進のために東雲小学校でのユネスコスクールに全力で取り組み、授業で出来ないところをエコクラブも活用して子どもの力を引き出すなどパワフルな先生の実践もされてきました。教師が取り組みやすいように、学習指導計画に ESD をつなげた「ESD カレンダー」を作成して、全国の学校に普及する活動もしてきた熱いお人柄から ESD の大きな推進役になってきたことが分かりました。学び方が知識伝達型から探究創出表現型へと教育のあり方も変わるに伴って、教員主導から学習者主



体の ESD の学びに変わるには、インタープリターやファシリテーター、コーディネーターの力が必要とされるが、教員自体がその体験や学びがないため、NPO の方が学校に呼ばれた時には環境学習指導者として子どもの行動が変わるその姿を見せることで教員が納得するようなご支援をいただきたいとの具体的なお願いもいただきました。

次に ELC の会（環境学習コーディネーターの集まり）代表の市野敬介氏より、平成 25 年度に取り組んだ千葉市立打瀬中学校での「ESD 実証授業」の報告、環境パートナーシップちば代表の桑波田和子より千葉県環境学習指導者養成講座を 3 年間取り組んでの ESD 普及の難しさなども報告されました。

この後、小川かほるファシリテーターによって、短時間ながらグループ「ESD って何」「行動する授業のレベルアップ」「協力して参加」に別れ話し合い質問を公表して、石田先生から貴重なアドバイスを受けて終了となりました。参加者夫々にお土産があった半日になったことと思います。

（横山）



印旛沼流域圏交流会 キックオフミーティング 参加のご報告

環境パートナーシップちば 谷 彩音

「印旛沼に関わる市民みんなの力で、印旛沼の環境をよくしたい！」そんな思いから始まった、印旛沼流域圏交流会。その立ち上げに向けたキックオフミーティングが、3月9日に開催されました。

「流域圏」とは、印旛沼流域に暮らす人ばかりでなく、その恩恵を受ける人や地域全てをさすとのこと。この言葉に後押しされ、東京都民の私も、印旛沼ファンの一人として会に参加しました。

第一部の話題提供では、「健康だったころの昔の印旛沼を地図から探る(近藤昭彦氏・千葉大学)」、「印旛沼の現状についての整理・再認識(小倉久子氏・環境パートナーシップちば)」と題したお話がありました。

第二部の自己紹介では、「泳げる印旛沼を取り戻したい!」「印旛沼の宝さがしをしよう!」「印旛沼ウォーキングをしたい!」など、印旛沼への様々な「思い」が飛び出しました。

第三部の意見交換では、「この交流会で、どんなことを始めるのか?」というテーマに対し、「地域円卓会議のように、色々な人が交流できる場にしよう!」「話して終わりではなく、活動しよう!」

「若者も活躍できる会にしよう!」など、活発な意見が出されました。また、大学関係の方からは、「会を通して研究と市民活動をつなぎたい」「皆が描く印旛沼の将来像の実現にむけて、大学の知見も活かして作戦を提案したい」などのコメントもありました。

60名を超えた当日の参加者は、印旛沼流域に住む人はもちろん、印旛沼の水を飲む人、たまに散歩にくる人、里山の保全活動やゴミ拾いの活動をする人、大学で印旛沼の研究をする先生や学生さん、行政の人など、さまざまでした。交流会を通して「流域圏」の市民の思いが集まり、印旛沼や地域をよくする大きな力になればよいなと思いました。

なお、交流会では、「流域圏」の緩やかな連携・交流の場として、メーリングリストでの情報共有や、ホームページでの情報発信、定期的な勉強会などを予定されているそうです。詳細は交流会ホームページ

(<http://wms.cr.chiba-u.jp/inbanuma/>)をご覧ください。

ナガエツルノゲイトウ 手賀沼で駆除実験始まる(速報)

きょうは、前回話した手賀沼でのナガエツルノゲイトウの報告が届いたので、その話をしよう。手賀沼ではナガエツルノゲイトウが爆発的に増え続けており、昨年10月には湖畔のボート屋さんの桟橋に大きな群落流れ着き、船が出せなくなるという被害が発生した。

そこで、市民(美しい手賀沼を愛する市民の連合会:通称「美手連」)が専門家の指導を受けながら、3月23日にメンバー15名が集まり、遮光法による駆除実験を開始したそう(翌日3月24日の読売新聞に様子が掲載されている。)

実験場所の手賀沼公園前ではナガエツルノゲイトウは、すでに芽を出し始めていたが、その上を長さ20m、幅8mの農業用シートできっちり覆い、シートは土嚢(ドク)でしっかり固定した。このシートは今後2年から2年半くらい覆ったままにしておき、ナガエを完全に枯死させるという。

遮光面積150m²というのは、現在のナガエの群落の内のほんの一部でしかないが、今回の実験は、一般市民の目に留まりやすい手賀沼公園で行い、「こうした作業によって、特定外来生物に対する意識啓発にもつなげていきたい。」(八鍬雅子会長)という思いが込められているのだ。

なお、前回の遮光法の紹介の時に、「数か月」遮光して枯死させる、と書いてしまっただが、実際にはそんな簡単なものではないらしい。今回は、実験ということで、遮光シートの下でのナガエツルノゲイトウの様子はずっと観察していくということで、ナガエとの戦いは、まだまだこれから、というところだ。(小倉)



第59回環境パートナーシップエコサロン報告

今回は、「食と農について考えませんか」というテーマで、2013年12月10日(火)、ちば市民活力創造プラザ大会議室にて開催されました。話題提供者として、金親 博榮 氏 (NPO 法人ちば里山センター理事長)をお招きして、農家でもあり、市民活動も熟知している方として、食と農や農的な暮らしについて伺いました。

金親博榮氏は自宅周辺の谷当で1992年に谷当グリーンクラブを設立。谷当は千葉市若葉区にあり、豊かな自然が残っています。同クラブには、田んぼ部会、畑部会、森林部会などがあります。20数年間、周辺の恵まれた自然環境を守り、稲作、畑作など農家として、林業についてもかかわってきました。2002年から始まった里山シンポジウムには、実行委員長としかかわってこられ、その体験、人的交流などから、今、話題になっている藻谷浩介氏の里山資本主義(かつて人間が手を入れてきた休眠遺産を再利用することで、原価0円からの経済再生、コミュニティ復活を果たす現象)の本からの抜粋も交えて、今回沢山の事柄について語っていただきました。

特に、質疑応答で印象に残った言葉は、ヨーロッパからの農業使節団が来日した際、後継者不足が日本農業の大きな課題だと説明したとき、彼等は一様にびっくりしたと金親氏は述懐していたことです。きっと、農業はとても大切な職業なので、ヨーロッパでは後継者で苦労することはないのに、なぜ、日本では後継者不足なのかと思われたようです。さらに、農業への市民参加の推進についての行政サポートの必要性、そして「食と農」では、まず「食」の前に「農」を考える必要があるのではという意見など、時間が足りないくらいでした。

以上のように、今回のエコサロンでは、興味深い意見交換が行われ「食と農」を考えるはじめての一步になったのではと感じています。

(加藤)



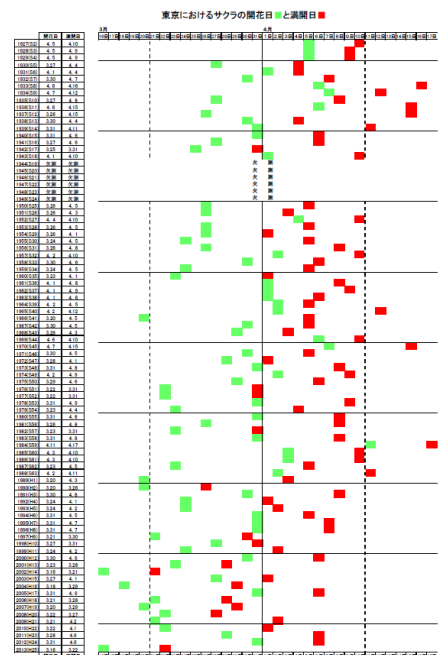
矢野良明さんによる講演「気候変動とその影響」をお聴きして

小林 悦子

まず「気象現象の水平及び時間スケール」の画面。竜巻から、集中豪雨、梅雨前線、寒波まで、身近な気象現象の寿命と規模とが正相関するという導入で、一気に引き込まれました。北極振動という現象で寒波や異常高温が生じること、異常気象はどのようなときにそう呼ぶかなどのお話があり、すぐに温室効果ガス濃度の増加、世界平均気温や海面水温の経時的上昇、東京の桜の開花日/満開日が前倒しになってきていること等々、地球温暖化現象とそのしくみの説明がありました。2013年9月に開催されたIPCC第5次評価報告書第1作業部会報告に話が進んだときには思わず姿勢を正しました。2007年に第4次報告書が公表されたとき、「地球温暖化」は現在も解決の道筋が描かれないまま残っている地球規模環境問題の最たるものとの認識を持ちました。町内会をベースにした環境家計簿をつける活動を展開しているのもそこが原点です。今回のエコサロンに参加したのも地球温暖化に関するお話をお聴きするのが目的でした。第5次報告書では、RCP(代表濃度経路)シナリオを複数用意しそれぞれの将来の気候を予測していますが、RCP2.6シナリオ(低位安定化シナリオ)だけが放射強制力の低下傾向を示していました。このシナリオを用いて「気温上昇をX℃に抑えるためには」といった目標主導型の社会経

済シナリオを作成・検討できるだろうから、今後の作業が待たれるということでした。この1枚の画面のインパクトがとても大きく、続く温暖化による気候変動の具体的な現れとしての諸現象についての画面は頭を素通りしてしまいました。RCP2.6シナリオに基づく社会経済シナリオの提案がなされた時点で、再度矢野さんのご講演をお聴かせ願いたいと思います。

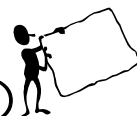
<グラフ>
サクラの開花日・満開日の推移
(1927年～2013年：上から下へ)
開花日、満開日ともに約90年間の間に少しずつ早まっていることが分かる。



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 20 —

おききました！ この人・この団体

美しい手賀沼を愛する市民の連合会（通称 美手連）



美しい手賀沼を愛する市民の連合会 小倉久子

みなさんは手賀沼をご存知でしょうか。ずっと「日本一」だった沼です。何が「日本一」だったかと言いますと、COD（水質の有機汚濁の指標）が日本一高い値（すなわち日本一汚れている）湖沼だったのが28年間も続いたことで有名なのです。

地元の市民は昭和58年から湖北座会という勉強会を作って、手賀沼周辺の歴史・文化や手賀沼の浄化について学んできましたが、座会会長の星野七郎氏の提唱により、平成7年に「沼と共に生きる周辺地域の自然・生活環境のより良いあり方を学習し、美しい手賀沼に蘇らせる」ことを目的とし、美しい手賀沼を愛する市民の連合会（略称美手連）が誕生したのです。

当初の会員は14団体でしたが、目的達成のために、「官民学は正しい情報を時を失することなく提供し合い、十分な意思疎通を図った人と人との触れ合いの中で、手賀沼浄化・周辺の環境保全に向かって相互に良きパートナーとなって努力する」ことを信条としてきました。その結果今では、環境団体だけではなく、文化活動や消費者運動を進める団体、漁業協同組合、生活協同組合、市職員組合からなる24団体の大きな会となっています。

美手連の大きな仕事としては、手賀沼流域フォーラムの事務局を務めていることと手賀沼統一クリーンデイの開催です。手賀沼流域フォーラムというのは、手賀沼の水質の改善や流域の環境保全を進めるため、市民活動団体、流域7市（柏・我孫子・印西・白井・鎌ヶ谷・松戸・流山）、手賀沼水環境保全協議会が協働し、千葉県手賀沼親水広場の協力、山階鳥類研究所の後援で開催しているもので、美手連は市民主導で運営を担っています。平成20年からは「手賀沼の生物多様性をともに考えよう」をテーマとして、講演会（全体会）や、流域各地で水質測定、自然観察会、文化・歴史散歩など（地域イベント）を行っています。昨年度は28もの地域イベントが開催されました。このフォーラムの活動をきっかけとして、亀成川を愛する会が発足し、また一昨年から手賀沼の生き物調査活動も実施し、手賀沼の現状について市民へ情報発信しています。

手賀沼統一クリーンデイは、12月初旬に市民に

呼び掛けて行われる清掃活動です。平成15年の佐鳴湖研修で学んだことをきっかけに翌年から始めました。我孫子と柏2か所・美手連有志のみの参加で始まったのが、去年は我孫子・柏3か所・白井・印西で800名が参加するまでになりました。これも行政と協働で実施しています。

平成18年から始まった北千葉導水（利根川の水を浄化用水として手賀沼に入れる）によって沼に入る水の量が増えたため、沼の水の滞留時間（水が入ってから出るまでの時間）が大幅に短くなりました。それ以前からの下水道対策などに加えて、この導水の効果が表れて、アオコの発生が抑えられ、沼の水質（COD）は改善されました。ワースト1の汚名は返上されましたが、滞留時間が短くなったことで沼の生態系が変わってしまい、手賀沼が美しく豊かになるには一層の努力が必要です。そこで美手連では、生物多様性の回復を目標として精力的に活動しています。

美手連では、手賀沼水環境保全協議会、水質専門委員会、湖沼水質保全計画策定委員会に参加し、積極的に施策の提案をしています。現在の手賀沼の大きな課題はナガエツルノゲイトウやハスの繁茂ですが、美手連では勉強会を開いて専門家から情報を得たり、各地の先例を調査して効果的な駆除方法を検討し、県や市に提案し協働で駆除に取り組んでいます。市民団体同士の協働、行政との協働が非常にうまく機能しているのが美手連の大きな特長であり、八鍬雅子現会長の言葉を借りれば、ゆるやかな連合だからこそうまくいっているのだそうです。



流域フォーラム地域イベント（手賀沼用水路で魚採り）

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

2月運営委員会

日時 2月18日(火) 15:30~17:30
場所 船橋市男女共同参画センター研修室

【報告】

- ・だより95号印刷・発送
- ・千葉県環境学習指導者養成講座導入コース インターンシップ受け入れ団体交流会 2/10
- ・エコメッセ運営委員会 2/4
- ・協働創造市交流会 1/27

【協議】

- ・だより96号 メルマガ発信
- ・2月エコサロン 2/18(温暖化と気候変動)
- ・環境学習プロジェクト・エコメッセプロジェクト・ESDフォーラム 3/23
- ・事務局より
25年度まとめと26年度方針/事業活動案

3月運営委員会

日時 3月3日(火) 15:30~19:00
場所 ちば市民活動創造プラザ 大会議室

【報告】

- ・2月エコサロン 2/18
- ・千葉県環境学習指導者養成講座 報告書提出
- ・講座および環境学習支援の依頼
- ・メルマガ発信

【協議】

- ・だより96号
- ・エコメッセプロジェクト 3/14
- ・ESDフォーラム 3/23
- ・印旛沼流域圏交流会キックオフミーティング 3/9
- ・事務局より
25年度まとめと26年度方針/事業活動案

お知らせ

第11回里山シンポジウム in 君津
テーマ「里山・裏山・命山 その恵みと創造」
～見る、聞く、触れる、味わう、嗅ぐ、そして、作る。遊ぶ、学ぶ～

日時：5月18日(日) 10時~17時
会場：君津市生涯学習交流センター(君津中央公民館)
参加費：500円(資料代)
内容：①里山活動の事例報告、分科会
②基調講演
演題「里山のにぎわいを作り出す力」
講師：ケビン・ショート氏
東京情報大学教授・ナチュラリスト
③地元発表
④ディスカッション「里山に託す私たちの未来」

主催：里山シンポジウム in 君津実行委員会・
里山シンポジウム実行委員会

春の展示 ~水辺の記憶~
写真家林辰雄のまなざし

会期：平成26年3月8日(土)~5月25日(日)
会場：千葉県立中央博物館 本館 企画展示室
入場料：一般300円
主催：千葉県立中央博物館
<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

林 辰雄氏：佐倉市出身のアマチュア写真家。
昭和30~40年代の高度経済成長期に、水辺に生きる人々の暮らしをテーマとして、風景や生活の変化を膨大な記録写真に遺しました。

内容：
印旛沼とその周辺の暮らし
九十九里浜と外房海岸の暮らし
東京湾岸の暮らし
暮らしの姿とその変容

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969
Eメール: info@kanpachiba.com
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		